

「主にささげて
満ち足りる」
聖徒五十五
091

「主にささげて 満ち足りる」

歴代誌 II 29～31章

ヒゼキヤ王の宗教改革

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. ヒゼキヤの即位・神殿修復 29章

II. 一ヶ月遅れの過越の祭り 30章

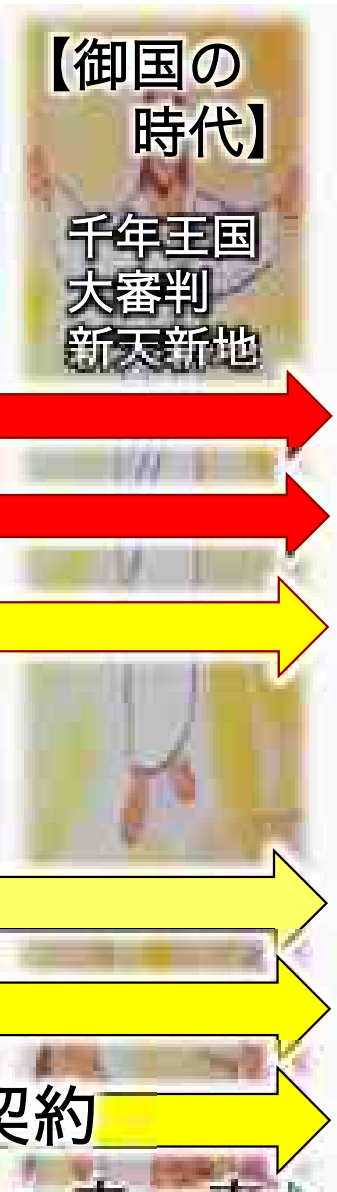
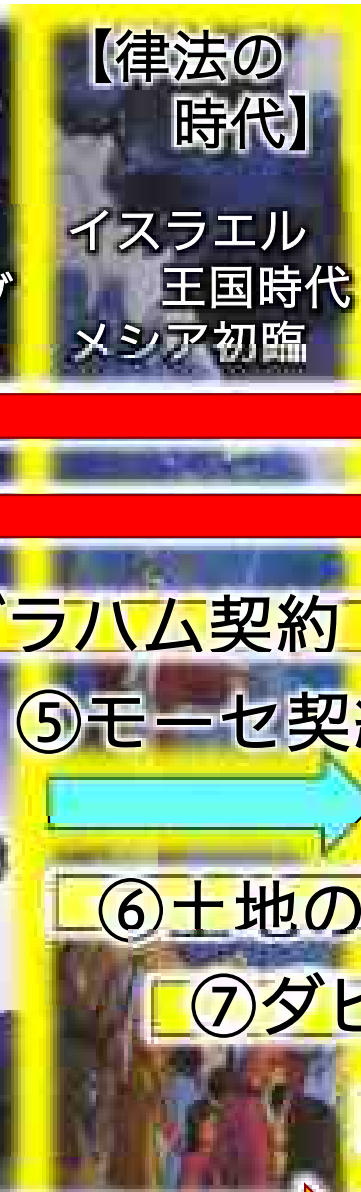
III. 民の献げ物と宗教改革 31章

IV. まとめと適用

私たちのささげるべき

真実の礼拝とは？





【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

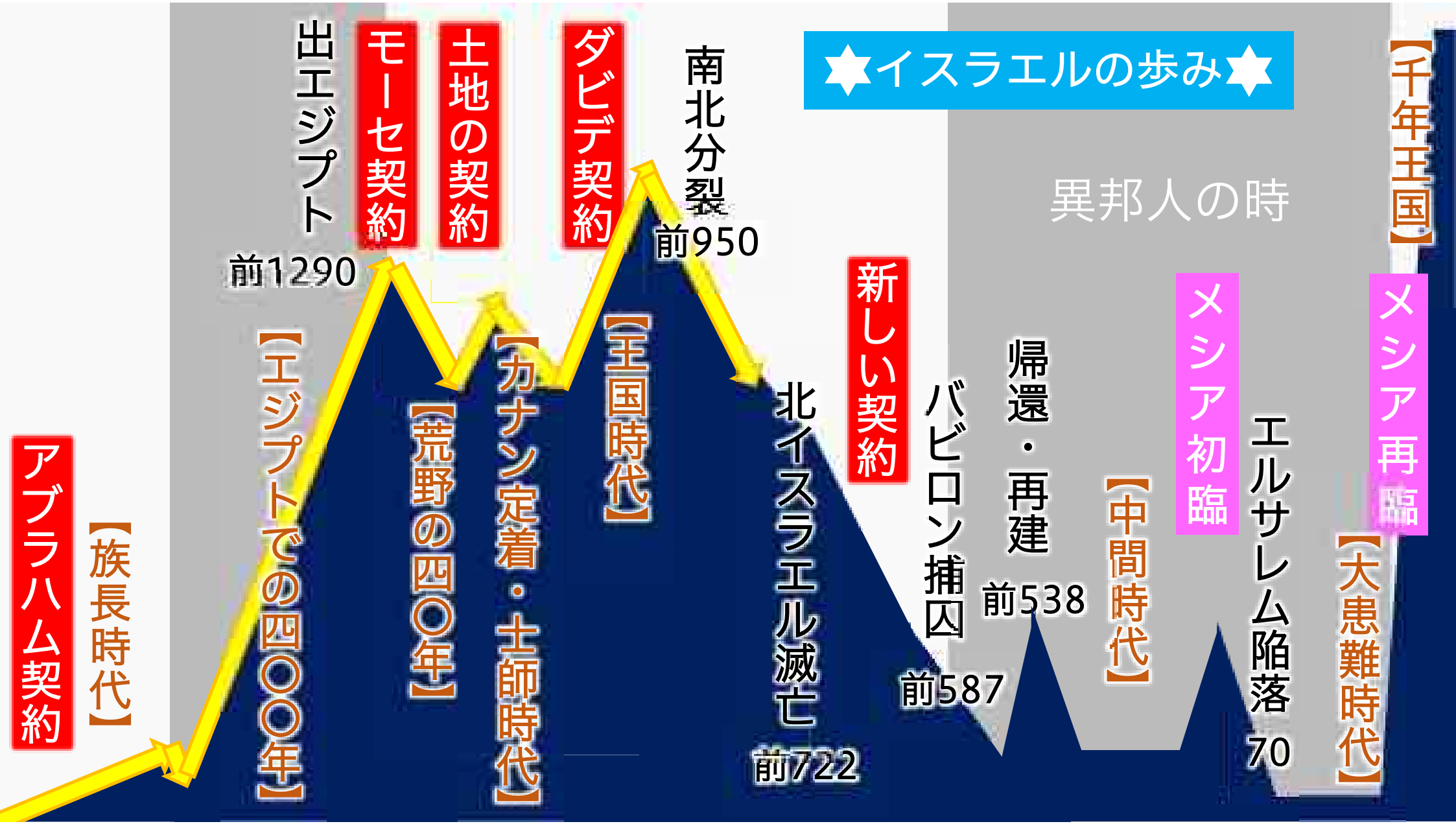
どの時代も
神の約束が礎にある

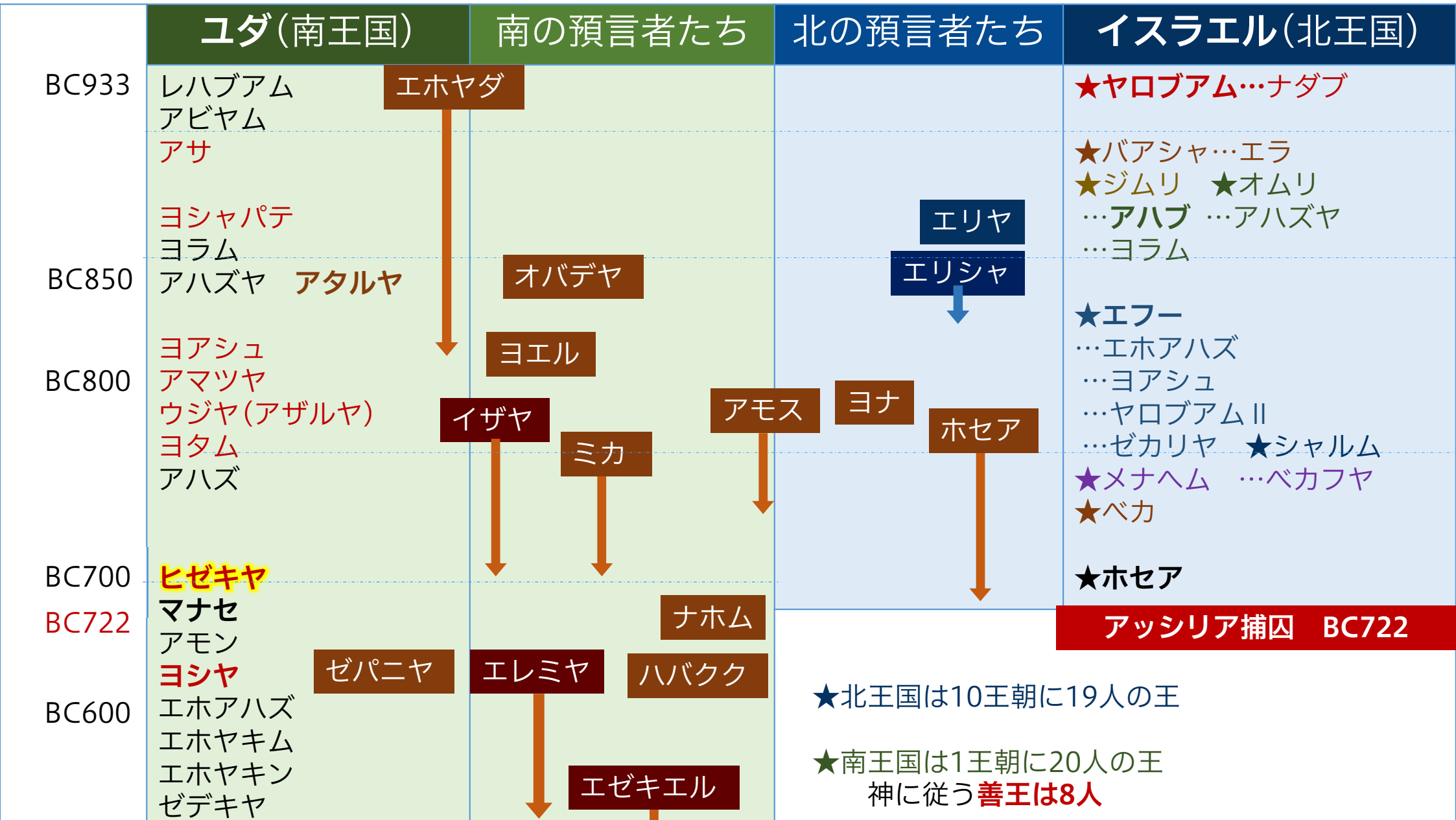
過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



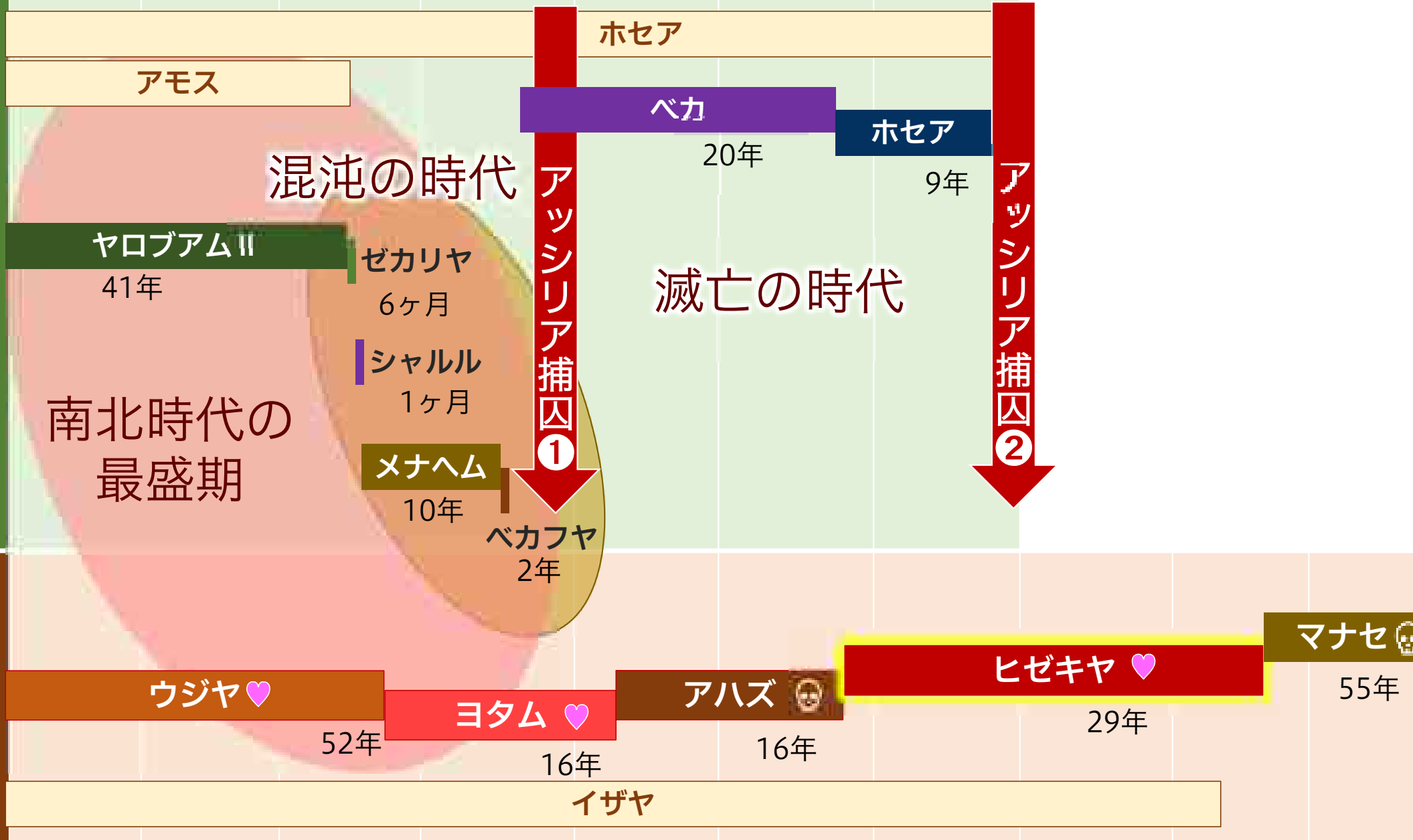


★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

北王国イスラエル

南王国ユダ



混沌の時代

滅亡の時代

南北時代の最盛期

アッシリア捕囚①

アッシリア捕囚②



ヒゼキヤ王の即位の背景

- **BC740**…第一次アッシリア捕囚(BC740年)、ヨルダン川東岸のルベン族、ガド族、マナセの半部族が捕囚に。
- **BC741**…南王国で**アハズ王**が即位。カナンの偶像の人身供養を実施。アラムの偶像の祭壇を神殿に設置、祭司を境内から閉め出す。
- **BC730**…アッシリアがイスラエル北部を侵略。南王国も属国に。
- **BC726**…南王国で**ヒゼキヤ王**が即位。
- **BC722**…3年間の包囲の末、サマリア陥落。北王国が滅亡。



Ⅰ. ヒゼキヤの即位と神殿修復

歴代誌第二29章

サマリア

【ヒゼキヤ王の即位】 歴代誌Ⅱ 29:1～3

ヒゼキヤ*は二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はアビヤといい、ゼカリヤの娘であった。

彼は、すべて父祖ダビデが行ったとおりに、【主】の目にかなうことを行った。

彼はその治世の第一年の第一の月に、【主】の宮の戸を開いてこれらを修理した。

*“主は我が力”

■父アハズが閉ざしていた。神殿の復元。

ヒゼキヤの初仕事は、壊された神殿の復元。



【神殿回復の命令】 歴代誌 II 29:4～6

彼は祭司とレビ人を連れて来て、東側の広場*に集め、彼らに言った。「レビ人よ、聞きなさい。今、あなたがたは自分自身を聖別しなさい。あなたがたの父祖の神、【主】の宮を聖別し、聖所から忌まわしいもの*を取り除きなさい。

というのも、私たちの先祖は信頼を裏切り、私たちの神、【主】の目に悪であることを行い、この方を捨て去り、【主】の御住まいから顔を背けて背を向けたからです。」

*神殿の正面の広場。祭壇が設置されていた。

*アハズが建てたアラムの偶像神の祭壇



【神への背きの結果】 歴代誌Ⅱ 29:7～9

また、彼らは玄関の戸を閉じ、ともしびを消し、聖所でイスラエルの神に香をたかず、全焼のささげ物を献げることをしなかったのです。

そこで、【主】の御怒りがユダとエルサレムの上に下り、あなたがたが自分の目で見るとおり、主は彼らをおののきのもと、恐怖のもと、また嘲りの的とされました。見なさい。このため私たちの先祖は剣に倒れ、私たちの息子たち、娘たち、妻たちは、捕虜になっています*。

*北王国の約半分は、すでにアッシリアが侵略。
南王国もアッシリアの属国に。



【主に選ばれたレビ人】 歴代誌Ⅱ 29:10～11

「今、私の願いは、イスラエルの神、【主】と契約を結ぶ*ことです。そうすれば、主の燃える怒りが私たちから離れるでしょう。

子たちよ、今、手をこまねいてはなりません。【主】はあなたがたを選んで*ご自分の前に立って仕えさせ、ご自分に奉仕する者、香をたく者とされたからです。」

*シナイ契約の再確認

*主が12部族から**レビ人**を神殿の奉仕に選んだ。



【レビ人の氏族】 歴代誌Ⅱ 29:12~14

そこで、レビ人は立ち上がった。ケハテの子孫からはアマサイの子マハテとアザルヤの子ヨエル、メラリの子孫からはアブディの子キシユとエハレルエルの子アザルヤ、ゲルシヨンの子孫からはジンマの子ヨアフとヨアフの子エデン、エリツァファンの子孫からはシムリとエイエル、アサフの子孫からはゼカリヤとマタンヤ、ヘマンの子孫からはエヒエルとシムイ、エドトンの子孫からはシェマヤとウジエルであった。

■レビ人の悔い改めが、宗教改革の始まり。



【宮のきよめ】 歴代誌Ⅱ 29:15～17

こうして、彼らは自分の兄弟たちを集め、身を聖別して、【主】のことばによる王の命令のとおり
に、【主】の宮をきよめに来た。

祭司たちは【主】の宮の内側に入って、これをきよめた。彼らが、【主】の神殿にあった汚れたものをみな【主】の宮の庭に出すと、レビ人が受け取って、外のキデロンの谷*へ持って行った。

彼らは第一の月の一日に聖別し始めた。その月の八日に【主】の玄関に入り、八日間にわたって【主】の宮を聖別し、**第一の月の十六日***に終えた。

* 神殿の東側、オリーブ山との間の谷。



過越祭は
十四日
間に合わな
かった!!

【きよめられた主の宮】 歴代誌Ⅱ 29:18～20

そこで、彼らは中に入り、ヒゼキヤ王のところに行って言った。「私たちは【主】の宮をすべてきよめました。全焼のささげ物の祭壇とそのすべての用具、並べ供えるパンの机とそのすべての備品をきよめました。

また、アハズ王がその治世に信頼を裏切って取り除いたすべての用具を整えて、聖別しました。ご覧ください。それらは【主】の祭壇の前にあります。」

ヒゼキヤ王は朝早く、この町の長たちを集めて、【主】の宮に上って行った。



【罪のきよめのささげもの】 歴代誌Ⅱ 29:21～22

彼らは、王国と聖所とユダのために、罪のきよめのささげ物として、雄牛七頭、雄羊七匹、子羊七匹、雄やぎ七匹を引いて来た。王は、祭司であるアロンの子らに命じて、【主】の祭壇の上でささげ物を献げさせた。

彼らは牛を屠り、祭司たちがその血を受け取って祭壇に振りかけた。次に雄羊を屠り、その血を祭壇に振りかけた。次に子羊を屠り、その血を祭壇に振りかけた。

律法にのっとり
けがれた神殿をきよめた



【転嫁された罪】 歴代誌Ⅱ 29:23～24

それから、彼らは王および会衆の前に、罪のきよめのささげ物とする雄やぎを引いて来て、それらの上に自分たちの手を置いた*。

祭司たちはこれらを屠り、その血を祭壇に献げて、罪のきよめのささげ物とし、全イスラエルのために宥めを行った。全焼のささげ物と罪のきよめのささげ物を、王が全イスラエルのために命じたからである。

*罪の転嫁。雄やぎがイスラエルの罪を負った。



【奏楽者たち】 歴代誌Ⅱ 29:25～26

また、王はレビ人を【主】の宮に配置し、ダビデおよび王の先見者ガド、預言者ナタンの命令のとおり、シンバルと琴と豎琴を持たせた。この命令は【主】から出たものであり、その預言者たちを通して与えられたものだからである。

こうして、レビ人はダビデの楽器*を手にし、祭司はラッパを手にして立った。

*ダビデが考案した楽器。ダビデが奏楽隊を組織。



【礼拝する民】 歴代誌Ⅱ 29:27～29

そこでヒゼキヤは、全焼のささげ物を祭壇で献げるように命じた。全焼のささげ物が献げ始められると、イスラエルの王ダビデの楽器に合わせて、【主】の歌とラツパが始まった。

全会衆は伏し拝み、歌い手は歌い、ラツパ奏者はラツパを吹き鳴らした。このすべては、全焼のささげ物が終わるまで続いた。

献げ終わると、王および彼とともにいたすべての者は、膝をかがめて伏し拝んだ*。

*主の前にひざまづくのが、礼拝の原点。



【主への賛美とささげ物】 歴代誌Ⅱ 29:30～31

ヒゼキヤ王と高官たちが、ダビデおよび先見者アサフ*のことばをもって【主】を賛美するようにレビ人に命じると、彼らは喜びつつ賛美した。そして、一同はひざまずいて伏し拝んだ。

そのとき、ヒゼキヤは言った。「今、あなたがたは【主】に身を献げました。近づいて、感謝のささげ物を【主】の宮に携えて来なさい。」会衆は感謝のささげ物を携えて来た。また、心から進んで献げる者はみな、全焼のささげ物を携えて来た。

*ダビデが組織した奏楽隊の長。多くの詩篇も残す。



【ささげ物】 歴代誌Ⅱ 29:32～33

会衆が携えて来た全焼のささげ物の数は、牛七十頭、雄羊百匹、子羊二百匹であり、これらはみな、【主】への全焼のささげ物であった。

また、聖なるささげ物*は、牛六百頭、羊三千匹であった。

*交わりのいけにえ(和解のささげ物)

➔重要な部分(脂肪等)以外は民が食した。

神との交わりの食卓。



【残れる祭司】 歴代誌Ⅱ 29:34

ただ、祭司たちが少なかった*ので、すべての全焼のささげ物の皮を剥ぎ尽くすことができなかった。そこで、彼らの兄弟に当たるレビ人が、その役目を終えるまで、またほかの祭司たちが身を聖別するまで助けた。レビ人は、祭司たちよりも直ぐな心をもって、身を聖別したのである。

*アハズ王の偶像礼拝に、多くの祭司も取り込まれていたのだろう。祭司ウリヤを筆頭に。

■レビ人のアロンの氏族の子孫が祭司。

レビ人の方が、信仰者がまだ残っていた。



【神の備え・民の喜び】 歴代誌29:35～36

また、多くの全焼のささげ物、その全焼のささげ物に添える交わりのいけにえの脂肪*、注ぎのぶどう酒*もあった。こうして【主】の宮の奉仕の用意ができた。

ヒゼキヤとすべての民は、神が民のために備えてくださったことを喜んだ。このことが突然のことだった*からである。

*最も重要な部位。他は民が食べた。

*いけにえに添えて、主にささげたぶどう酒。

*アハズの死去、ヒゼキヤの即位。

← すべては神の御手の内に





II. 一ヶ月遅れの過越の祭り

歴代誌第二30章

オリーブ山

【過越の祭りの呼びかけ】 歴代誌Ⅱ 30:1

ヒゼキヤはイスラエルとユダの全土に人を遣わして、またエフライムとマナセに手紙を書いて、エルサレムにある【主】の宮に来て、イスラエルの神、【主】に過越*のいけにえを献げるように呼びかけた。

*過越の祭り …イスラエル三大例祭の一つ。

出エジプトを記念する最も重要な祭り。

十番目の災いを過ぎ越すために、子羊を犠牲にしたことを覚える。 ➡十字架のメシアの型



【一ヶ月遅れの過越の祭り】 歴代誌Ⅱ 30:2～3

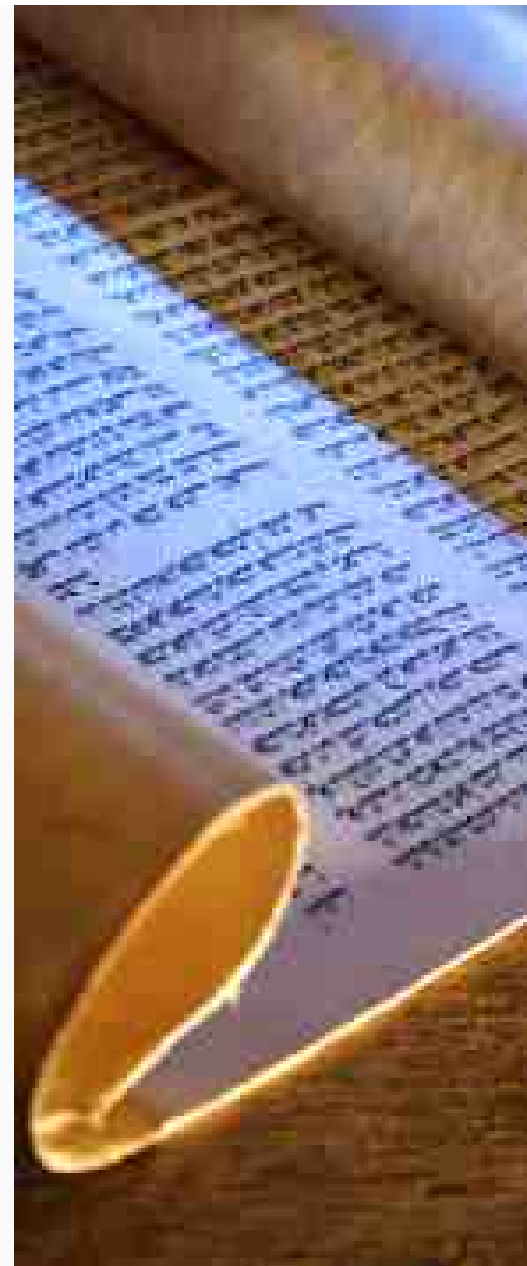
王とその高官たちとエルサレムの全会衆は協議して、第二の月に過越のいけにえを献げようと決めた。

というのは、**身を聖別*した祭司たち**が十分な数に達しておらず、民もエルサレムに集まっていなかったため、そのときには献げることができなかったからである。

***祭司は、いけにえの血で身をきよめた。**

■ 過越祭の前に、祭司や民の罪をきよめるための罪のきよめのいけにえを膨大にささげる必要が。

➔ 神殿の回復だけで精一杯だった。



【全イスラエルへの通達】 歴代誌 II 30:4~5

このことは、王と全会衆の目に良いことに思えたので、彼らはベエル・シェバからダンに至るまで、イスラエル全土に通達を出し*、エルサレムに来てイスラエルの神、【主】に過越のいけにえを献げるよう、呼びかけることを決定した。規定どおりに献げている者が多くなかった*からである。

*全イスラエルへ。南北分裂以降、初めてのこと。

*南王国だけでは、過越祭の準備が難しい？



【悔い改めの促し】 歴代誌 II 30:6~7

急使たちは、王とその高官たちから託された手紙を携えて、イスラエルとユダの全土を行き巡り、王の命令のとおり告げた。「イスラエルの子らよ、アブラハム、イサク、イスラエルの神、【主】に立ち返りなさい。そうすれば、主は、アッシリアの王たちの手を逃れて残ったあなたがたのところに、帰って来てくださいます。

あなたがたは、父祖の神、【主】の信頼を裏切ったあなたがたの父たちや兄弟たちのようになってはなりません。あなたがたが見るとおり、主は彼らを恐怖に渡されました。」



確認される
神の民のルーツ

【主による悔い改めのチャンス】 歴代誌Ⅱ 30:8～9

今、あなたがたは、自分たちの父たちのようになじを固くしてはなりません。【主】に服従しなさい。とこしえに聖別された主の聖所に来て、あなたがたの神、【主】に仕えなさい。そうすれば、主の燃える怒りがあなたがたから離れるでしょう。

もしあなたがたが【主】に立ち返るなら、あなたがたの兄弟や子たちは、彼らを捕虜にした人々のあわれみを受け、この地に帰って来るでしょう。あなたがたの神、【主】は恵み深く、あわれみ深い方であり、あなたがたが主に立ち返るなら、あなたがたから御顔を背けられることはありません。」



滅亡直前の
北王国になお
主の憐れみが

【上ってきた人々】 歴代誌Ⅱ 30:10～11

こうして急使たちは、エフライムとマナセからゼブルンの地に至るまで、町から町へと行き巡ったが、人々は彼らを笑いものにして嘲った*。

ただ、アシエル、マナセ、およびゼブルンの一部の人々は、へりくだってエルサレムに上って来た。

*急使は、北王国をめぐったが…

いかに、民の心が主から離れていたか



【巡礼者の大集団】 歴代誌Ⅱ 30:12～13

また、ユダには神の御手が臨んで、人々の心を一つにし*、【主】のことばどおり、王とその高官たちの命令が実行された。

こうして、第二の月に多くの民が、種なしパンの祭りをを行うためにエルサレムに集まった。それは、おびただしい数の大集団であった。

*南王国には一致があった。



【過越の祭り】 歴代誌Ⅱ 30:14～16

彼らは立ち上がり、エルサレムにあった祭壇を取り除き、すべての香の壇を取り除いて、キデロンの谷に投げ捨てた。

そして、第二の月の十四日に、彼らは過越のいけにえを屠った。祭司とレビ人は恥じて、身を聖別し、全焼のささげ物を【主】の宮に携えて来た。

彼らは神の人モーセの律法のとおり、定めにしたがって*、それぞれの持ち場に立った。祭司はレビ人の手から受け取った血を振りかけた。

*最も重要なモーセの律法の通りに行われた



【レビ人の役目】 歴代誌Ⅱ 30:17

会衆の中には、身を聖別していない者*が多かった。そこで、きよくないすべての人々に代わって、レビ人が、過越のいけにえを屠る役目に就かなければならなかった。それらを【主】に対して聖なるものとするためである。

*異邦人のライフスタイルに染まり、律法から離れている者が多かった。



【ヒゼキヤのとりなし】 歴代誌Ⅱ 30:18～19

民のうち大勢の者、エフライムとマナセ、イッサカルとゼブルンの多くの者*は、身をきよめずに、しかも、記されているのとは異なったやり方で過越のいけにえを食べてしまった。それでヒゼキヤは彼らのために祈った。

「いつくしみ深い【主】よ、彼らをお赦してください。彼らは聖なるもののきよめの規定どおりにいたしませんでしたが、心を定めて神を、彼らの父祖の神、【主】を求めています。」

*北王国の民。長年の偶像礼拝の悪影響。



【民の癒し】 列王記 II 30:20~21

【主】はヒゼキヤの願いを聞き、民を癒やされた*。

エルサレムにいたイスラエルの子らは、七日の間、大きな喜びをもって種なしパンの祭りを行った。レビ人と祭司たちは、毎日【主】に向かって力強い調べの楽器を奏でて、【主】をほめたたえた。

*何らかの神の裁きが、すでにくだされていた？

神から離れていること事態、病んでいると言える。



【種なしパンの祭り】 歴代誌Ⅱ 30:22～23

ヒゼキヤは、【主】への務めによく通じているすべてのレビ人に励ましのことばをかけた。彼らは、交わりのいけにえを献げ、父祖の神、【主】に告白をしつつ、七日間*、祝いの食事にあずかった。

全会衆は、さらに七日間祭りを行うことを決め、喜びをもって七日間、祭りを行った。

*過越の祭りに続く、種なしパンの祭り。



【神との喜びの交わり】 歴代誌Ⅱ 30:24～25

ユダの王ヒゼキヤは、千頭の雄牛と七千匹の羊を会衆に提供し*、高官たちは雄牛千頭と羊一万匹を会衆に提供した。また、多くの祭司が身を聖別した。こうして、ユダの全会衆、祭司とレビ人、イスラエルから来た全会衆、イスラエルの地から来た寄留者でユダに在住している者たち*は、みな喜んだ。

*大量の交わりのいけにえ。大BBQ大会!!

*北からの難民・移住民がいたことが分かる。

■民が喜んだのは、神との交わりの回復。



【天に届いた祈り】 歴代誌Ⅱ 30:26～27

エルサレムには大きな喜びがあった。イスラエルの王、ダビデの子ソロモンの時代以来、エルサレムでこのようなことはなかったからである。

レビ人の祭司たちが立ち上がって民を祝福した。彼らの声は聞き届けられ、彼らの祈りは、主の聖なる御住まいである天に届いた。

- 律法通り、祭りが行われ、祭司が、正しくとりなしを行い。神の定めた方法によって、イスラエルの祈りは天に届けられた。





Ⅲ. 民の献げ物と宗教改革

歴代誌第二31章

【倒された偶像】 列王記Ⅱ 31:1

これらすべてのことが終わると、そこにいた全イスラエルはユダの町々に出て行き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、ユダ全土とベニヤミン、またエフライムとマナセの中にある高き所と祭壇を徹底的に壊した*。そして、すべてのイスラエルの子らは、それぞれ自分の町、自分の所有地へ帰って行った。

*ここまで徹底したきよめはなかった。



【回復された礼拝】 列王記 II 31:2

ヒゼキヤは祭司とレビ人の組を定め、祭司とレビ人それぞれの組ごとに、その奉仕にしたがって全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げさせ、さらに、【主】の宿営の門で仕え、告白し、賛美させた。

- アハズに破壊された神殿での日々の礼拝も回復された。



【王の献げ物、祭司の取り分】 列王記Ⅱ 31:3～4

また王は、全焼のささげ物のために、自分の財産から自分の分を出した。すなわち、【主】の律法に記されているとおりに、朝夕の全焼のささげ物、また安息日、新月の祭り、例祭ごとに献げる全焼のささげ物をした。

さらに彼は、エルサレムに住む民に対して、祭司とレビ人の受ける分を与えるように命じた。祭司とレビ人が【主】の律法に専念するため*であった。

*祭司、レビ人が律法に専念できるように。

そのために祭司の取り分が定められた。



【民の献げ物】 列王記Ⅱ 31:5～7

この命令が広まるとともに、イスラエルの子らは、穀物、新しいぶどう酒、油、蜜など、畑のすべての収穫の初物をたくさん持って来た。彼らはすべての物の十分の一を豊富に携えて来た。

ユダの町々に住むイスラエルとユダの人々も、牛や羊の十分の一と、彼らの神、【主】に聖別した聖なるささげ物の十分の一を携えて来て、いくつもの山に積み上げた。

第三の月に彼らは積み始め、第七の月に終えた。

＊五旬祭の頃から、仮庵祭の頃まで



三大例祭すべてに
十分過ぎる献げ物が

【ささげ、満ち足りた】列王記Ⅱ 31:8～10

ヒゼキヤと高官たちは、やって来て積まれた山*を見ると、【主】とその民イスラエルをほめたたえた。

ヒゼキヤが、その積まれた山について祭司とレビ人に説明を求めると、ツアドク家の祭司の長アザルヤが、彼に答えて言った。

「人々が奉納物を【主】の宮に携えて来ることを始めてから、食べて満ち足り、たくさん残るようになりました。【主】が御民を祝福されたので、その残りがこんなにたくさんあるのです。」

*幕屋建設の時を思わせる。



主にささげられることが恵み
ささげることで、満たされる

【納められた奉納物】 列王記Ⅱ 31:11～13

そこで、ヒゼキヤが【主】の宮の脇部屋*を整えるように命じたので、彼らは整えて、その奉納物と十分の一の聖なるささげ物を忠実に運び入れた。彼らを指図した長はレビ人カナンヤであり、その兄弟シムイが補佐であった。

エヒエル、アザズヤ、ナハテ、アサエル、エリモテ、エホザバデ、エリエル、イスマクヤ、マハテ、ベナヤは、ヒゼキヤ王と神の宮のつかさアザルヤの命によって、カナンヤとその兄弟シムイを助けて管理者となった。

宮の脇部屋



【祭司への分配】 列王記Ⅱ 31:14~15

東の門*の門衛、レビ人イムナの子コレは、神に進んで献げるものを受け持ち、【主】への奉納物と最も聖なるささげ物を分配した。

彼の下には、エデン、ミンヤミン、ヨシュア、シェマヤ、アマルヤ、シェカンヤがいて、祭司の町々で組ごとに、老若の別なく、忠実に彼らの兄弟たちに分配した。

* 神殿の正面入口の門。献げ物を運び入れる所。

■ 律法の規定通り、献げ物から祭司の分が配分された。



【レビ人の再組織】 列王記 II 31:16~17

これとは別に、系図に記載された三歳以上の男子で、毎日の日課として組ごとの任務に就き、奉仕に当たるために【主】の宮に入るすべての者にも分配した。

また父祖の家ごとに祭司として系図に記載された者、および、二十歳以上のレビ人で系図に記載された者で、組ごとにその任務に就く人々にも分配した。

■ レビ人が組織し直され、分配も公正に。

➔ 神殿への奉仕体制が回復された。



【レビ人、祭司の家族】 列王記Ⅱ 31:18～19

さらに、全会衆のうち、すべて系図に記載された幼児、妻たち、息子たち、娘たちにも分配した。彼らは聖なるささげ物を、聖なるものとして忠実に扱ったからである。

また、それぞれの町の放牧地にいるアロンの子らである祭司たち*のためには、どの町にも指名された者たちがいて、祭司たちのすべての男子、および、レビ人で系図に記載されている者すべてに受ける分を与えることとした。

*「逃れの町」やレビ人の居留する町、地方にいる祭司たちにも公正な分配がなされた。



【信仰者ヒゼキヤ】 列王記 II 31:20～21

ヒゼキヤはユダの全地でこのように行い、その神、【主】の前に、良いこと、正しいこと、真実なことを行った。

彼が始めたすべてのわざにおいて、すなわち、神の宮の奉仕において、律法において、命令において、彼は神を求め、心を尽くして行い、これを成し遂げた。

■ 信仰者において第一は、主の命令に従うこと。

➔ ヒゼキヤは、律法時代に求められる信仰者の使命を忠実に、心を尽くして果たした。





IV. まとめと適用

私たちのささげるべき真実の礼拝とは？

ヒゼキヤ王の宗教改革

- ①即位後すぐに、閉鎖され、破壊された神殿を補修、復元した。
- ②まず祭司とレビ人に、身をきよめ、主に立ち返るよう布告した。
- ③最も重要な過越の祭りを行った。全イスラエルに呼びかけた。
- ④各地の偶像を、「高き所」まで徹底的に破壊した。
- ⑤祭司、レビ人を組織し直し、礼拝と奉仕を回復した。

そして、「彼らの祈りは、主の聖なる御住まいである天に届いた。」

ヒゼキヤ王の宗教改革の本質

「彼が始めたすべてのわざにおいて、すなわち、神の宮の奉仕において、律法において、命令において、彼は神を求め、心を尽くして行い、これを成し遂げた。31:21」

- 最も重要なのは、神の宮の奉仕が律法に基づいてなされること。
→礼拝は、**神の定めた方法**で行われなければならない。
- 同時に求められるのは、神を切望し、心から尽くして行うこと。
→神の命令への応答は、**心からのもの**でなければ意味がない。

神の定めた方法に従い、心からささげるのが、真実の礼拝

今の教会時代のあるべき礼拝

■主イエスが、サマリアの女に告げられた、あるべき真実の礼拝
「しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。

神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。ヨハネ4:23~24」

- ① 第一に、主イエスを神のメシアと信じること。
救いの御業が成し遂げられて以降は、主イエスの福音を信じること。
- ② 信じて新生した者の内に住まわれる聖霊によって礼拝する。
真理・神の御言葉は、聖霊の助けがあって初めて理解できる。

主イエスの福音を信じ、聖霊に助けられ、御言葉により礼拝する

★ 礼拝はたたかいでもあると覚えよう ★

■ ヒゼキヤが戦ったのは、真実の礼拝を妨げる、偶像礼拝。
現代の信仰者の戦いも同様に、偶像礼拝を相手にしている。

■ 現代の最大の偶像礼拝は、人間の正義。

実例) NBUSを憂慮するキリスト者連絡会。

本質は、LGBTQ云々ではなく、神に逆らう人間の正義・偽善。
彼らが拒んでいるのは、罪人の唯一の救いの道・福音そのもの。

■ 私たちの最大の戦いの手段は、御霊と真理による、真実の礼拝だ。

ますます堅く、福音に立ち、御言葉を解き明かし、力を得ていこう。

主イエスの福音を信じ、聖霊に助けられ、御言葉により礼拝する

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ}罪を^{つみ}重ねてきました。
ひび おか つみ こくはく つみ
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神のみ子^こイエス・キリストが、
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

おう しんじつ しゅ れいはい もの
ヒゼキヤ王のように、真実に主を礼拝する者としてください。

ふくいん しん すく わたし ないじゅう せいれい たす
福音を信じ、救われた私たちは、内住される聖霊に助けられ、

しゅ みことば れいはい
主の御言葉によって、まことの礼拝をささげます。

み あふ めぐ しゅ しょうり あた
満ち溢れる恵みと、主による勝利を与えてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」